

## 〃自分事〃 にすること

—— 難しくも重要なこと ——

市橋 岳 大

はじめに

「愛知県からできること」—— そんな言葉を掲げて活動している団体に私は所属している。

この団体—— *Boys&Girls*—— は東日本大震災の大津波により甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市の市立図書館の再建、蔵書の拡充を目的として結成され、「陸前高田市立図書館ゆめプロジェクト」に参加している。活動の根底にある想いは「震災を遠い地で起きた〃他人事〃ではなく〃自分事〃にすることで、確実に来ると言われ続けている南海トラフ地震の発生に備える」というものである。

〃他人事〃 から 〃自分事〃 へ

八年前のあの出来事を皆さんは覚えていらっしゃるか？

国を震撼させたあの「東日本大震災」という単語を忘れることとはないだろう。しかし、あの時現地がどのような状況に置かれていたか、被災された人々や直接被災することを免れた人々

がどのような想いを抱いたのか、私は鮮明に思い出すことができなない。

それはなぜだろうか？ 年齢？ 被災地との地理的な距離？ 要因の候補はいくつも挙げるができるだろう。

ここでは〃他人事〃であったことを主要因として挙げたい。当時中学一年生であった私（生まれも育ちも名古屋）にとつて東北地方はまさしく「みちのく」であり、東日本大震災に対しても「なんか遠くの方で大変なことが起きているみたいだなー」程度の認識であったと推測される。テレビや新聞などのマスメディアを通じて報道される凄惨さを薄めた情報を見ても、僅かばかり立ちすくむのみであり、あくまで画面の中、遠くの方で起きた自分には縁のない〃他人事〃であり続けた。庄内川に面した名城大学附属高等学校に進学した後も災害について特に考えることはなく、むしろ大雨が降った際には、高校近くの駅の冠水した高架下に寄って行くような危機感のない行動をとっていた。

昔から登山やスキーで訪れていた御嶽山が二〇一四年の秋に噴火したとの報せを耳にした時は災害に対する危機感を一瞬抱いた気もするが、あまり持続はしなかったようである。

大学に進学し、洪井ゼミに所属してから *Boys&Girls* に携わる先輩との交流が始まり、震災に関する話題に触れる機会も多くなった。その結果、徐々に災害に対する意識を持つようになり、岩手県陸前高田市に何度か足を運び、現地の方のお話を伺ったことでようやく〃他人事〃から〃自分事〃へと変化させることができたのである。



「タピック 45」屋上から海を眺める Book-aid メンバー

### 自分事になるまでの道のり

宮城県気仙沼市にあるリアス・アーク美術館の震災に関する展示や、「いつか君の花明かりには」という映画に胸を打たれ、震災遺構として残されている「タピック45」の内部の様子や「桜ライン31」の活動に参加して、実際にどこまで津波が到達したのかを目の当たりにした。気仙大工左官伝承館で語り部の方のお話を伺い、津波で壊滅的な被害を蒙った八木澤商店の物語も見聞した。一二・五mもの高さを誇る防潮堤や、陸前高田市南西の高台から見渡した土色の建設現場が広がる市街地からは、少しずつ進む復興の状況も感じられた。

これだけの経験を経てようやく「自分事」にすることができたのである。

### 教訓を活かすために

ここまで時間がかかったのは感受性の問題かもしれない。だが愛知県で普通の生活を送る中では、私の見聞した十分の一の情報すら得ることはできなかったであろう。

ここ愛知県は南海トラフ地震に襲われると警鐘を鳴らされ続けているが、住民たちの防災意識が高いとは言いがたい。巨大地震やそれに伴う津波など発生し得る事象は東日本大震災と類似性が高く、その教訓を活かすことができるはずである。

「桜ライン31」——津波の到達地点に桜の木を植え、東日本大震災の教訓を後世へ繋ぐ活動をしているNPO法人——で代

表理事を務める岡本翔馬氏を講師に迎えて、学内で開催された「経済・経営学会二十周年記念講演会」（二〇一九年七月五日、後援：名城大学経友同窓会）では、二〇一五年からお付き合いのあるBookaidも企画・運営に参加させて頂いた。講演においても、被災の可能性が高いはずの日本国民の防災意識の低さが指摘されたが、実に耳の痛い内容であった。東日本大震災に関わる活動に従事している私でさえそのような状況であったのだから、そうでない人々にとってはなおのことであろう。

この体験からも人々の防災意識の水準が推測される。私たちは日々の活動や大学祭における学術展示などを通じて啓発活動に努める必要があると考える。

### 学生生活におけるBookaidの意義

学生生活を顧みると、防災意識を高めながら友人たちとの親交を深められたことがBookaidに参加した成果と言えるが、それ以上の価値も得られたと考えている。

「桜ラインⅢ」の方々をはじめ、Bookaidに参加していなければ接点を持つことさえなかったであろう陸前高田市の皆さんと交流して、自分の狭隘な見識を広げることができたことは、今後の人生においても価値あるものであると確信している。

### 活動内容と私たちの願い

日頃のBookaidの活動は、学内外に設置しているブック・ポ

ストに投じられた書籍を回収し、その中から(株)バリユーブックスに査定してもらえらるものを選別し、発送するという至極地味な作業である。(株)バリユーブックスによる買い取り金額相当が陸前高田市に寄附されることで、陸前高田市立図書館の再建・充実に微力ながら貢献している。

書籍を集めて発送し換金してもらった上で寄附するという現在の方法よりも、効率的に支援する手立てもあるだろう。しかし私たちは、今後もこれまで通り地道にコツコツと継続していく。持続可能な形で行うことによって、長期的に被災地の復興を支援することができるのは勿論、記憶に留め続けることにもなるはずである。それによって、来たる南海トラフ地震の被害を減らすことにも繋がると考えている。

今度、私たちのブック・ポストに書籍を投じて下さる機会があれば（なくても）、その瞬間だけでも災害に思いを致して欲しい。それを継続してあなたの防災意識を高めることが、ひいてはあなた自身を、あなたの大切な人を救うことに繋がるのだから。